

家庭防災の基本

家族などとの連絡方法の確保について

災害時、最も心配になるのが家族や友人の安否。災害直後は、電話などがつながりにくくなります。

家族や友人と連絡を取るさまざまな方法を覚えておきましょう。


音声による確認方法


- 1 災害用伝言ダイヤル1717で声を残す 
- 伝言を録音するときは1 → 0000-0000-00000 → 伝言を吹き込む
自宅の電話番号を市外局番から入力
- 1717 ※市外局番などは不要
- 伝言を再生するときは2 → 0000-0000-00000 → 伝言を聞く
相手の電話番号を市外局番から入力


2 公衆電話を使う

災害時、固定電話や携帯電話はつながりにくくなりますが、公衆電話は一般回線より優先的に回線が確保されます。また、災害時には被災地の公衆電話は無料で使えます。ただし、旧型の公衆電話(グリーンの本体とシルバーのボタンの場合、10円玉やテレホンカードを入れないと電源が入りません。(国際電話は使えません))

文字(パケット通信)による確認方法

- 3 災害用伝言板を利用する 
- 各社のトップメニューから「災害用伝言板」を開く
- 伝言を登録する場合 → 登録 を選択して伝言を入力する
- 伝言を確認する場合 → 確認 を選択し、相手の携帯番号を入力して伝言を見る

- 4 携帯電話のメールを活用する 
- 災害発生直後は携帯電話がにつながりにくくなりますが、自分の状況を随時送信しておくことで、災害用伝言板と同じ役割を發揮します。

- 5 パソコン(インターネット)のEメールを利用する 
- 固定電話や携帯電話が使えない状況でも、パソコン(インターネット)を使ったEメールは比較的届きやすい場合があります。

非常用持出品・備蓄品の準備について

大きな災害が発生したら、多くの人が負傷し、家屋にも大きな被害が発生します。電気・ガス・水道などのライフラインも止まり、最低限の日常生活も難しくなってきます。そのような時、行政などによる支援が届くまで自力で生活するだけの備えをしてください。

また、避難場所で過ごす場合に備えて非常食や持ち出し品を準備しておきましょう。

家庭によっては、赤ちゃんや高齢者、病気の方、アレルギー体質の方などのために必要なものも揃えておきましょう。



非常用持出品の準備例

<p>①貴重品 </p> <p>現金(硬貨があると便利)、預金通帳、印鑑、免許証など。</p>	<p>②携帯ラジオ </p> <p>予備電池を用意。</p>
<p>③非常食 </p> <p>乾パン、缶詰など火を通さなくても食べられるもの、水など。</p>	<p>④懐中電灯 </p> <p>できれば防水型を一人一台。また、予備電池を用意。</p>
<p>⑤救急薬品・常備薬 </p> <p>絆創膏、包帯、風邪薬、胃腸薬など。</p>	<p>⑥衣類、その他 </p> <p>上着、下着、オムツ、生理用品、タオルなど。</p>

備蓄品の準備例

<p>①食料品 (最低3日~1週間分) </p> <p>アルファ米や、缶詰、菓子類など。</p>	<p>②水 </p> <p>1日3リットルを目安に準備。</p>
<p>③燃料 </p> <p>卓上コンロ、ガスボンベ、固形燃料。</p>	<p>④その他 </p> <p>生活用水、やかん、ウェットティッシュ、紙おむつなど。</p>